

プレスリリース

文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業」

「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト

平成28年度グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）in 川場村

外国人留学生のための川場村観光モニターツアー and

地域のグローバル展開を考えるGLLPインターンシップ

「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト

企画・運営責任者 結城 恵

(群馬大学 大学教育・学生支援機構 教授)

群馬大学では、留学生の定着支援をオール群馬で取り組み、その実効性を高めようと、本年5月23日に関係機関と連携した「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアムを立ち上げました。現在、このコンソーシアムには、10 高等教育機関、6 行政機関、5 経済団体、5 国際交流協会、13 民間企業・団体等（うち1 金融機関）が加盟し、本学を事務局としてその充実を図っています。

その後、コンソーシアム内に組織された3つ組織、すなわち、住環境整備推進委員会、生活・就職支援実行委員会、グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）研究会で、きめ細かな留学生受入環境整備を進めているところです。

今回、プレスリリースさせていただく事業は、上述した3つの組織のうち、「グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）研究会」（注1）が中心となって企画・立案し、群馬県利根郡川場村の全面的な協力を頂いて実施する、「グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）インターンシップ」です。5年間をかけて体系化するこのインターンシップは、平成27年度は企画の構想をし、平成28年度は、平成29年度以降に県内10大学の留学生・日本人学生を対象に本格始動する本インターンシップ実施のためのアクション・リサーチであり、試行的に実施されるものです。



平成28年度「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム（5月23日）の様子

注1 「グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）研究会」

研究会は、本事業の達成を図るため、

- (1) 日本国内で活躍する意欲を持つ留学生を発掘・組織し、その群馬県内への就職・定着を促進する方策に関すること、
 - (2) 国内外で事業展開を構想・実践できるグローバル人材の養成に関すること、
 - (3) その他目的を達成する上で必要な事項、
- を検討する会です。

この研究会には、次の団体名が加盟し、積極的な議論が進められています。

委員長 増田煉瓦(株)代表取締役 増田晋一氏

副委員長 永井酒造(株)代表取締役 永井則吉氏

加盟団体 群馬県・サンデンホールディングス(株)・(一財)サンデン環境みらい財団・永井酒造(株)・(株)田園プラザ川場・増田煉瓦(株)・グリーンリーフ(株)・鳥山畜産食品(株)・(株)前田設備・(株)群馬銀行・群馬大学

1. 平成28年度グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）の目的と背景

(1) 群馬県内に就職したくてもできない留学生・県内に就職したくて来る留学生

群馬県内には、約1,000人の留学生が高等教育機関等で学んでいます。これらの留学生のうち約6割が卒業後には日本国内あるいは群馬県内に就職したいと考えているのにもかかわらず、実際に就職できるのは1割程度です（結城 2014）。

一方、県内では、留学生のもつ資質を活用しグローバル展開を図りたいと考えている企業も少なくはありません。群馬大学が2016年1月から3月に実施した調査によれば、県内企業426社中75社が留学生の採用が「ある」と答えています（結城 2016）。これら企業でヒアリング調査をしてみると、優秀な留学生ならば県内にとどまらず県外からも採用したいという企業もあり、実際に、県外の大学を卒業して群馬県での職場で活躍している留学生もいることがわかりました。

(2) 留学生の就職支援に必要な、生活と仕事を知り・就職につなげる「インターンシップ」

留学生の定着支援を図るには、一日限りの企業説明会や企業への訪問ツアー等も有効な手段となりますが、留学生に聞くとその経験を十分に活用したとはいえない、と言います。群馬県の企業の魅力を十分に知る中長期的な取り組みと、就職した後も職場や地域での人間関係を育む機会を提供する必要があります。

そこで、本事業では、留学生が群馬県内での生活と仕事を知り・就職につなげる「インターンシップ」の機会を提供します。優れた留学生の視点や発想・語学力・ネットワークを活用したいという、企業や地域と留学生を結び、生活と仕事を知り・就職につなげる仕組みを作り出そうとするのが、本事業の目的です。

(3) 留学生のもつ生まれ育った文化や社会が異なる視点と、日本人の学生ももつ「よそ者・若者・ばか者」の視点を交流させ、企業と地域に留学生のインターンシップを受け入れる基盤を創る。

そうはいつても、留学生をインターンシップで受け入れた実績がほとんどない企業にとっては、準備が必要となります。企業のみならず企業のある地域での受入れ環境の整備も不可欠です。まずは、留学生の視点を活用してみるとどのような知見が得られるのか、ということ、企業で、地域で体感していただくことから始めてみることも必要でしょう。

そこで、本年度は、平成29年度以降の留学生を受け入れるインターンシップを本格的に実施する前に、留学生のもつ生まれ育った文化や社会が異なる視点と、日本人の学生ももつ「よそ者・若者・ばか者」の視点を交流させる2つの企画を実施することにしました。そのひとつが「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」、もうひとつが「グローバル展開を学び考えるGLLPインターンシップ」です。

(4) 舞台は、川場村。

本事業の実施にあたり全面的に協力してくださるのは、川場村です。川場村でも、少子高齢化が進んでいますが、その対策のひとつとして「グローバル対応を前提とした地域特性、環境、文化、産業の情報体系の構築」を目指しています（第4次総合計画）。留学生や県内外の「よそ者・若者・ばか者」の視点に期待いただき、村内の「優良グローバル」企業3社（永井酒造株式会社・株式会社田園プラザ川場・株式会社雪ほたか）と村の歴史・文化・観光資源の要所となっている青龍山吉祥寺、そして、今回の受入れ窓口となってくださっている川場村役場の5つの機関にご協力いただき、「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」と「地域のグローバル展開を考えるGLLPインターンシップ」を展開します。

(5) 本事業は5年計画。初年度の本年度は、GLLPインターンシップの基盤整備のためのアクション・リサーチ（試行的なGLLPインターンシップ）です。

本事業は、平成32年度末まで継続的に展開する予定です。初年度に当たる本年度は、上記(1)の実情を踏まえ、県内の留学生のみならず、県内外・国内外からの留学生を呼び込む仕組みを考えるアクション・リサーチを実施します。川場村が実習生全員に提示した課題「むらづくり振興課の業務の一環として、村内の産業や観光等関係企業や団体において職場体験し、その体験を通して村内の状況を把握し、保養の方法や文化体験等のメニュー作成、村内の英語標記案内の提案等に関わる情報を収集すること」を、上述した5つの機関でのインターンシップを通して遂行します。留学生のもつ生まれ育った文化や社会が異なる視点と、日本人の学生ももつ「よそ者・若者・ばか者」の視点がどのように交流し、その知見を導き出していきます。ご期待ください。

(6) 参加学生は県内外・国内外から。本事業のために1年から3年の研修を受けた学生たちを核にチーム実習で展開。

本事業の立ち上げには、県内外の学生たちも参加してきました。群馬大学・東京大学・立教大学・前橋工科大学の学生・留学生です。今回の事業で中核となるのは、本事業の趣旨に賛同したこれらの学生・留学生は、本事業の推進に特化したカリキュラム「グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）」で養成している学生・留学生です（GLLP 学生リーダー）（注2）。これらの学生たちは、これまで、2年間にわたるみなかみ町での地域調査や地域関係者との協働活動を重ね、そのアイデアが商品化された実績を持っています。今回のインターンシップに向けて、昨年度より川場村でのフィールド調査をし、永井酒造株式会社代表取締役永井則吉様をはじめとする村関係者にもヒアリングを重ねてきました。今回のインターンシップでは、これらの学生たちが、本年度初めて群馬県内の地域実践に参加する日本人学生や留学生と小グループを組み、協働で情報収集し知見を導き出していきます。

注2 「グローバル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）」学生リーダー

今回のGLLPインターンシップ（7日間。詳細は後述）に参加する学生・留学生は24人。うち、12名がGLLP学生リーダーです。群馬大学4人、東京大学5人、立教大学2人、前橋工科大学1名です。



写真右：事前学研修では、GLLP 研究会でお世話になっている企業経営者のみなさまから講義を受けました。写真の永井則吉社長による講義の様子。



写真上：本事業の実施に向けての講義の様子。群馬大学と東京大学では正規の講義で、立教大学・前橋工科大学は公開講座等で、共通のカリキュラムで学習し備えました。



写真左：GLLP 学生リーダーは、課外活動としてゼミを発足、1年間で約350時間以上の研修を積みました。



写真左右：本事業の実施に向けて学生リーダーは昨年度より現地に入り、地域関係者や企業見学等の実地調査をしてきました。



2. 本事業の内容

本年度のG L L Pインターンシップは、「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」（1日間）と「地域のグローバル展開を考えるG L L Pインターンシップ」（7日間）をセットにした取り組みを前期・後期の2回行います。学生・留学生は、それぞれの予定に合わせて、前期・後期のいずれかに、上記2つの機会を選択します。

（1）「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」（1日間）

本事業に初めて参加する留学生で、インターンシップに参加する日程が取れない、あるいは、初めからの参加に不安がある学生がG L L Pインターンシップを来年度にチャレンジできるように「お試し」で参加できるようにしたものです。後述する（2）に参加する学生・留学生にとっては、ここでの留学生の視点や感想は、大変貴重なデータとなり、課題遂行に活用していきます。

（2）「地域のグローバル展開を考えるG L L Pインターンシップ」（7日間）

川場村が実習生全員に提示した課題「むらづくり振興課の業務の一環として、村内の産業や観光等関係企業や団体において職場体験し、その体験を通して村内の状況を把握し、保養の方法や文化体験等のメニュー作成、村内の英語標記案内の提案等に関わる情報を収集すること」を、上記（1）のモニターツアーとインターンシップとで体験的に得た知識・発見・学びをもとに探求していきます。こちらプログラムは、1週間の合宿型のインターンシップとなります。

3. 日 時

前期 平成28年9月5日（月）～11日（日）

「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」（9月5日）

「地域のグローバル展開を考えるG L L Pインターンシップ」（9月5日～11日）

後期 平成28年9月19日（月）～9月25日（日）

「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」（9月19日）

「地域のグローバル展開を考えるG L L Pインターンシップ」（9月19日～25日）

4. G L L Pインターンシップ受入機関（順不同）

川場村役場	利根郡川場村大字谷地 2390-2
永井酒造株式会社	利根郡 川場村門前 7 1 3
株式会社田園プラザ川場	利根郡川場村大字菰室 385
株式会社雪ほたか	利根郡川場村大字生品 2670 番地
青龍山吉祥寺	利根郡川場村門前 8 6 0

※実習場所の詳細は、後述する「6. お問い合わせ先」にご確認下さい。

5. 参加者

「外国人留学生のための川場村観光モニターツアー」 13名

(群馬大学5名、東京大学3名、高崎経済大学2名、前橋工科大学2名、
群馬工業高等専門学校1名)

「地域のグローバル展開を考えるGLLPインターンシップ」 24名

(群馬大学8名、東京大学11名、立教大学2名、前橋工科大学1名
東京大学OGOB2名)

6. 問い合わせ先

本事業 企画・運営責任者

結城 恵 (大学教育・学生支援機構 大学教育センター教授)

027-220-7382

週末・当日：080-2242-7998

※取材をいただける記者様には、取材当日の実習配置一覧をお渡しいたします。
予めご連絡下さい。